

# 平成 30 年度第 1 回札幌市はつらつシニアサポート事業評価委員会 会議録

1 日時 平成 30 年 5 月 31 日（木）午前 9 時 30 分～11 時 30 分

2 場所 札幌市役所本庁舎 地下 1 階 4 号会議室

## 3 議題

- (1) 平成 30 年度シニアチャレンジ事業申請案件の審査
- (2) 平成 29 年度シニアサロンモデル事業報告
- (3) 平成 30 年度シニアサロンモデル事業申請案件の審査(29 年度実績報告を含む。)

## 4 出席者

- (1) 委員（五十音順）

菅野 龍夫  
中田 雅美  
中路 康夫  
隼田 尚彦

- (2) 事務局

保健福祉局高齢保健福祉部長	佐々木
保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課長	柴垣
保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課生きがい支援担当係長	藤谷
保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課高齢福祉係	安念

## 5 議事の概要

- (1) 平成 30 年度シニアチャレンジ事業申請案件の審査

事務局から 1 件の申請案件の概要について説明し、団体からプレゼンテーションを受けるとともに、ヒアリングを行った。審議を行った結果、補助金交付が適当であるとの評価がなされた。

■ 交付決定団体「シニアサロンおいでおいで（事業名：早坂コミュニティファーム“あえる”）」についての主な質疑・評価内容は以下のとおり。

○（委員）農作業に不特定多数の方が集まると思われるが、農作業には危険なことも伴う。参加者に傷害保険を掛けることを考えているか。

⇒（団体）傷害保険の種類は検討中であるが、何らかの形で掛けるよう対応したい。

○（委員）これまでの活動で繋がりのある方が中心に参加されると思う

が、新たに参加したいと思っている方への周知方法についてどのように考えているか。

⇒(団体)これまでの活動から社会福祉協議会やまちづくりセンター、福祉のまち推進センターと繋がりをもっているため、これらの機関などを通して参加を呼びかけたい。

○(委員)事業を継続していくという観点から、事業の担い手を増やしていくような取組はあるか。また、補助期間が終了したあとも事業を継続できるような計画を考えているか。

⇒(団体)すでに福祉のまち推進センターや連合町内会などへ働きかけや繋がりづくりを意識的にしており、今後も様々な方へアピールし活動に共感する方を増やしていきたい。また、初めは利用者として関わっていた方が、一緒に活動するようになる例も増えている。

○(委員)畑の面積が広いため秋以降の作業も考えると人手が不足しないかという心配が若干あるが、これまでも利用していた畑を拡大して実施していくという状況であり、無理のない事業計画だと思われる。

○(委員)継続していくために意識的に働きかけていることが分かった。団体構成員の年齢が幅広いことから、事業の継続が期待できる。

## (2) 平成 29 年度シニアサロンモデル事業報告

事務局から、平成 29 年度にシニアサロンモデル事業補助金を交付した「地域交流サロンみちいく」の事業結果について報告を行った。

## (3) 平成 30 年度シニアサロンモデル事業申請案件の審査

事務局から 1 件の継続申請案件について、平成 29 年度の事業報告及び平成 30 年度申請内容の説明を行い、審議の結果、補助金交付が適当であるとの評価がなされた。

■ 交付決定団体「特定非営利活動法人たすけ愛ふくろう清田」(平成 29 年度から継続申請)についての主な評価内容は以下のとおり。

○(委員)平成 29 年度の利用者数について厳しい状況ではあるものの、様々なイベントを行い利用者が少しずつ増えてきている。開設したばかりでもあるため、これから徐々に認知度が上がると思われる。

○(委員)当該団体はサロン事業以外の活動もされているため、その活動を利用した方がサロンも利用するようになれば利用者増加に繋がるだろう。